



ぶかぶか漂う
第2回

断捨離の必要性



先日、大学時代の女友達と夕飯を食べる約束をしました。彼女は携えてきた紙袋を差出し、「返すの遅くなつてごめん」と。中に入っていたのは、村上春樹の『ダンスダンスダンス』上下巻と『ねじまき鳥クロニクル』第一部から第三部の計5冊。20年前の私が通学電車で読んでいた本です。

貸したことなどすっかり忘れていましたが、そこから堰を切ったように当時の想い出があふれだしました。あの先生の授業はどうだったとか、クラスメイトにあんな子がいたよねとか、それは盛り上りました。

今さら返さなくともよかつた本を友人が持ってきたのは、彼女が実家の自室を整理していたから。断捨離をしているというのです。

自身の彼女は数年前、当たると評判の占い師に運勢を見てもらい、2017年の夏に運命の人気が現れると言われたそう。「なんだ、がっかり」。2017年なんてまだまだ先じゃな

ぶら下がり、長女は背中側から私の肩につかまつた状態で、のっしのっしと水中ウォーキング。

すると、同じような状態で2人の娘に抱き付かれたお父さんが、向かい側から歩いてきます。

ん？　んん？

高校の同級生！　できれば相手に気が付かれる前に踵を返したかったけれど、もう目が合っちゃった。互いに、のっしのっしとゆっくり近づき、「久しぶりだね」「びっくりだね」とか言葉を交わしつつ、そそくさとすれ違います。サイアクだああ。

だって、私が被っていた水泳帽は子供の黄色い帽子。よりもよって子供の名前を馬鹿みたいに極端に大きく布に書き、縫い付けた一品です。

スイミングスクールの見学席から我が子を判別するために。転校が多いため、ありとあらゆる色の子供用水泳帽が揃う我が家。その中でも最も古いその帽子。薄汚

いか」と思っていたはずが、あつという間に月日は流れ、今年がまさにその夏だと。そこでもう一つ思い出したのが、占い師からの「断捨離をしなさい」という言葉。現在、急ピッチで遂行しているそうです。

油断だらけの再会

さて我が家では、水泳の授業が中止になつてばかりいると、小学生2人がぶつたれながら帰つてくる日が続いています。あまりにブーブーするさなので近場の屋内プールを検索。幼稚園児の末っ子を含め、家族5人で行ってみることにしました。

25mプールのほかに、ちょっとしたスライダーを備えた浅いプールもあって、なかなか楽しそう。小6男子と夫はマジ泳ぎコースに行つてしまつたので、私は小3長女と年長次男のお供。スライダーと25mプールを行つたり来たりです。25mプールでは彼らの足がつかないので、次男が私の首に

れた黄色に変色し、ゴムはびよんびよん。子供サイズでもゴムがのびちゃつているから私が被れるわけです。

1時間半前に、「被れるのがあってよかった」と思った帽子。間違いなく捨てておくべきでした。

真っ先に帽子がやばい！と頭に思い浮かびましたが、やばいのはそれだけじゃありませんでした。この屋内プールは水質を保つためにマイクは禁止。すっぴんです。しかも競泳用水着。どこもカバーもされていないではないですか。

その後、子供がスライダーに移動したいといつても拒否。ふやけるまで深いプールに身を沈めていたのでした。

文・写真
小宮華寿子
出版社編集部員
経て、フリーランスの編集者
に。2男1女の母。著書に『ブラジルの手しごと』(メイツ出版)がある。

イラスト・
デザイン
寺沼麻美
切り絵作家、時々
デザイナー。『ゆ
らゆらゆれる北欧風手作りモビール』(ネコ・パブリッシング)を監修。